

令和4年 第6回全員協議会会議録

令和4年4月18日 議員控室

○事 件

町長報告事項

(1) ウクライナ避難民の受入対応について（政策推進課・総務課）

○出席議員（12名）

議長 千葉 隆 君
赤井 睦美 君
大久保 建一 君
宮本 雅晴 君
牧野 仁 君
斎藤 實 君

副議長 黒島 竹満 君
佐藤 智子 君
関口 正博 君
三澤 公雄 君
安藤 辰行 君
能登谷 正人 君

○欠席議員（2名）

横田 喜世志 君

倉地 清子 君

○出席説明員（10名）

町長 岩村 克詔 君
総務課長 竹内 友身 君
政策推進課長 川口 拓也 君
政策調整係長 右門 真治 君
総務課長補佐 相木 英典 君

副町長 成田 耕治 君
財務課長 川崎 芳則 君
政策推進課長補佐 上野 誠 君
総務課長 竹内 友身 君
庶務交通係長 吉田 正樹 君

○出席事務局職員

事務局長 三澤 聡 君
庶務係長 松田 力 君

事務局次長 成田 真介 君

◎ 開会・議長挨拶

○議長（千葉 隆君） 皆さん、おはようございます。本日は横田議員さんと倉地議員さんが欠席ということで、迅速性を求められる案件で皆さんにお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。それでは挨拶は割愛させていただきます。

◎ 町長報告事項

○議長（千葉 隆君） それでは早速、町長報告事項（１）ウクライナ避難民の受入対応についてを、理事者のほうからご報告願います。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 私のほうからまず、このウクライナの避難民に対しまして、報道を見ながら大変悩んでおりました。受け入れできないものかということで考えていて、議長さん、副議長さん、さらに議運の委員長さんの三人にご相談したところ、早く議員の意見を聞いたほうがいいだろうということで、このような形になりましたことを、まずは感謝を申し上げたいと思います。

それでは、１と２がありますけれども、一緒でありますので、ご相談したいと思います。まず先ほど言ったとおり、ウクライナに対してロシアが侵略戦争を行っているということは、私としても大変残念なことだし、すぐに中止してほしいという思いでありますけれども、避難民の数が400万人を超えて増えてきているということから、八雲町としては受け入れ態勢を整備したいという思いであります。

この受け入れ態勢についてはですね、まだまだ日本の国の中も進んでいないということもあり、受け入れ態勢を整備したからといって避難民が来るという保証もありませんので、その辺は議員の皆様にもご理解をいただきたいと思います。

受け入れ態勢でありますけれども、受け入れ人数についてはですね、100名程度と考えています。住居については国立病院跡地のアパートなどを整備するということで、だいたい50件程度と考えております。

次に生活必需品の無償提供や、いろんなことを八雲町として準備をさせていただきたいと。それと、心健やかに安心した日々を過ごしてもらうための環境整備ということで、北海道から無償譲渡されました旧養護学校をここで日本語の勉強やいろんな日本の風習、また町民との交流の場とかそういうものに使っていきたいということで考えています。

ただ、もしもこのウクライナ難民が来ない時には、これを日本語学校ということで整備したらなということで、この日本語学校については、今、八雲町に研修生が入っていますが、研修生よりもちょっと上のクラス、我々も英語留学だとかということで日本語留学ということで、そういう留学生を受け入れるために、この養護学校を使ったらなということで考えていたところであり、まだまだ内容は固まっていませんけれども、40人規模で2年間、80名程度ということで考えています。これを2年くらいかけながら、許可も入りますので、これはまた議員の皆さんとしっかりと協議ながら進めるべきか、進めないべきかを、ウクライナの難民の受入体制しながら説明させていただければと思います。

さらに、今、研修生を入れている、いろんな企業、会社の方々からも、なんとか日本語を教えられるところがないかという要望がありましたので、日本語学校とともに日本語教室みたいなのを作ると、今、研修生で来ている人達が日本語のレベルアップして、さらに日本に永住できるとか、いろんな職種に行けるということも想定できますので、その辺についても、この難民の受け入れを準備しながら、また議員の皆さんに意見をいただきながらいきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

1と2と一緒に皆さんの意見を聞きたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○議長（千葉 隆君） それでは今、町長さんのほうからご提案がありましたことについて、皆さんからご意見を伺っていききたいと思います。

○9番（牧野 仁君） はい。

○議長（千葉 隆君） 牧野さん。

○9番（牧野 仁君） 昨日、実はNHKの日曜討論会でウクライナ避難生活をどう支えるかという議論を途中から聞いた話で、その中で私が感じたことは、今回、町長がおっしゃるとおり、国内においても難民の受け入れ態勢がほとんど手薄で、特にドイツなんかは6万9千人で日本は残念ながら47名ということで、それを聞いて僕もびっくりしまして、相当ハードルが高いんだろうなと受け入れ態勢として。そこで町長が迷ったというかどうかどうしたらいいかという話を、正にそのとおりだなと。

そこでですね、やはり国の政策もまだ手狭な部分もありまして、90日分の生活費を考えていると。その後はまたこれから法を整備しなければならないという話をされていました。そんな中で八雲町もご存じのとおり、人手不足、人材不足も兼ねて、そういった観点から相当ハードル高いものがあるのではないかとということも町長はこれから汗をかくわけですけども、行政側も大変でしょうけれども、是非、ウクライナの難民の方を、ニーズに沿った受け入れ態勢を前向きに考えてくれるのであれば、町としてもマイナスにならないし、プラスになると思いますので、是非その辺はよろしくお願いいたします。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 牧野議員ですね、本当にウクライナの難民について支援したほうがいいという意見でありますので、本当に八雲町としては、ふるさと納税等々もいただけてますので、それを活用できるかなと思っています。だいたい今、その施設の改修などで2億程度かかるのかなと。それと日本語の先生や、その辺で、それと家具や生活品等々で1億程度と考えています。ただし牧野議員さんがおっしゃっているとおり、国の支援がどこまで来るかはまだまだ不透明です。しかしながら八雲町が国を、多分、国の政策が遅いということで、いち早く多少整備して八雲が手を上げるとなると、今、我々も普通のふるさと納税についてもウクライナの難民のためのふるさと納税や、企業のほうにも要請していきたいと。特にその企業ごとに家具や電気製品、いろんな生活用品等々も支援してくれる可能性のあるところがあるのではないかと考えていますので、議員の皆さんと協力しながら進めてみたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○議長（千葉 隆君） ほかに。

○2番（佐藤智子君） はい。

○議長（千葉 隆君） 佐藤議員。

○2番（佐藤智子君） 町民からもウクライナの避難民を積極的に受け入れるようになったらいいなという声が上がっております。大変英断だと思います。

それで、もし本当にいらっしゃるとなると、通訳って言いますか、ロシア語、英語できる方とか、そういうコーディネーター的な方々が必要になってくると思いますけれども、その辺の手配等は頭にあるのでしょうか。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 早速ですね、明日ですね、札幌の機関と打ち合わせに行く予定をしております。ここは先ほど言いました日本語の学校を設立するための準備をしていただくところでありますので、今その機関を、日本語の学校はやっていますので、その辺も含めて、ただウクライナ語は難しいと聞いていますので、そこに聞きながらまた議員の皆さんもそういう関係がいらっしゃれば、どんどんこちらのほうに教えていただければなと。特に日本語を勉強していただく、さらに多分長くなると仕事もするということで、また学校に通うということが考えられていますので、その中でいきなり小学校、中学校に行くのではなくて養護学校を使って、子ども達に勉強や日本の風習を教えて、ある程度慣れたときから、学校や各企業に働きに来てもらうということも考えていますので、どうかその辺はこれから、民間機関、さらに道のほうにも要請する予定でいますので、よろしくお願いいたします。

○議長（千葉 隆君） ほかに。

○委員（三澤公雄君） はい。

○議長（千葉 隆君） 三澤委員。

○委員（三澤公雄君） 今回の話、三役としても先に聞いてたんですけれども、素晴らしいなと。企業の支援もおおるということで素晴らしいなと思って、ちょっと周辺を調べましたら、実はロシアとの交流で長年培ってきた根室管内、根室市役所にロシア語を活用したいということで就職されたり、いろんな支援活動されている人の中で、実は、いわゆるロシアとの交流が下火になっていて、根室にもそういう歩みが滞ってて、くすぶっていると、人材として。

だから今、先ほど道に相談するという話がありましたけれども、なにがしかの発信が根室管内やら根室市役所等で眠っている人材に届くような発信の仕方も、積極的に交流企画ややりたかったけれども、このままでは根室自体も動かないので、自分の能力がくすぶってどうしたものかという声も実際あげている人達もいると小耳に挟みましたから、人材をかつぱらってくるみたいな感じでイメージが悪いかもしれませんが、かなり広くロシア語に浸透した人材が根室方面にいるということも視野に入れてもらえたらなと。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） その辺はですね、稚内とかにも要請したいと思っていますが、ただ、ウクライナの方々はやっぱりロシア人に拒否反応があるのかなと、少し心配しながら。やはりウクライナの方でかなり、我々日本人はウクライナの人たちの意識ってあまりないのですが、ウクライナの方々は、かなり日本語を勉強している方もたくさんいらっしゃると聞いていますので、多分ウクライナ人からそういう通訳やそういう方を探しながら、やはり避難した人はロシアに攻められたとい

う意識もありますので、その辺、十分に配慮しながら取り決めたいと思っていますので、ご理解をいただきたいと思います。

○委員（三澤公雄君） はい。

○議長（千葉 隆君） 三澤委員。

○委員（三澤公雄君） ちょっと誤解を与えたので。

僕が言っているのは日本人なんです。日本人だけれどもロシア語が堪能で、そしてウクライナも日常的にロシア語とウクライナ語を両方使っているという文化圏だと聞いたものですから、なかなかウクライナ語一本でやっている人材よりも、ロシア語でとりあえず間接的に日本語に変換できる人材があるといいなと思ったので。日本人でした僕の話は。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） すみません。勘違いしていました。日本人であればですね、是非ですね、我々も調べながら活用していきたいと思っていますので、ありがとうございます。

○1番（赤井睦美君） はい。

○議長（千葉 隆君） 赤井議員さん。

○1番（赤井睦美君） 私も大賛成です。万が一誰もいらっしゃらなくても、どこかで震災とか災害が起きたときに、そういった方たちを八雲に招待するということもできるし、いろいろ活用できると思うので、是非やっていただきたいと思います。

それで、言語については、使ったことはありませんけれども、スマホとか翻訳機とかいろいろあるから、そういうことで柔軟に会話ができると思うので、まずは受け入れるという、町民みんながそういう気持ちを作ることが大事だと思うので、是非、よろしくお願いいたします。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） ありがとうございます。

本当に、翻訳機等々も最近はいいいものができているということで、早急に我々も役場職員にも買い求めて、我々も翻訳機を使いながらトークみたいなのがありますので、利用していきたいと思っています。

さらに、この協力隊も募集してみたいなということも考えてますので、多分そういう方々は、ウクライナ難民の方々やボランティアですね、いろんなことをやってみたいという方もいらっしゃると思っていますので、今回、議員の皆さんから賛同を得られたら、すぐに国に対して我々は難民を受け入れる体制を上げたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○議長（千葉 隆君） ほかに。

○5番（関口正博君） はい。

○議長（千葉 隆君） 関口議員。

○5番（関口正博君） 僕も賛成です。それでウクライナの件はもちろんですが、外国人材に頼るというのは非常にこれからのキーワードになってくるということでもあろうかと思っています。それで町として受け入れる場合に、今、先ほど町長は札幌の受入機関と協力しながらということをおっしゃっていました。佐藤さんが言ったように、生活支援のコーディネーターや通訳は非常にハードルが高い部分であります。当然、スピード感をもって望むためには、そのように既存の機関を有効に

利用しながらというのは十分にわかりますが、町としてもやはりこの部分の生活支援コーディネーターであるとか通訳は自前で将来的にちゃんと用意できるような体制を作っていくというのが非常に大事であろうかと思います。

募集かけたら外国人も来る時代ではこれからはなくなってくると思いますし、町として受け入れ態勢を整える、外国人が八雲町を選んでいただけるような態勢は早急に汲み上げる必要があると思いますので、この養護学校の回収も含めて、八雲は北海道に有利な部分があるのでそこをいかしながら、是非、スピード感をもって望んでいただきたいと思います。日本人学校学校は、北海道の行政機関を受け入れ作ることを念頭に置いた動きもあるというのは町長も分かっていると思いますし、是非は約態勢を整えていただければと。結構ハードルが高いと思いますけれども、協力していきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） ありがとうございます。

本当に、応援の意見をいただきました。確かに本当にこの、先ほど言ったとおり、誰も来なくて無駄になるということも考えられますので、ただ、今、関口議員さんからありましたとおり、その日本語のできる先生等々も早めに確保して給料を払っていくということもできるということで考えました。さらにこの日本語の学校は、日本語学校は週 20 時間ほどのアルバイトができるということも聞いていますので、八雲の中でなかなかパートさんが集まらないということもあって、日本語の勉強に来る人達はそういう可能性もありますし、また聞くところによると、だいたい 7 割程度が上の学校に行くそうです。日本語を学ぶアジアから来る人達は、そこそこのお金持ちの人達が来ますので、7 割程度は上の学校に行って、3 割程度は八雲や日本に残って仕事にすぐ着く方もいらっしゃると思いますので、これから日本語のできる、またここで働いてくれる人を呼び込んでいくときは、大変良い機関だと思っていますし、さらに北海道からいただいた養護学校も、本当に学校として使えるということで我々としては大変、有意義なものだと思っていますので、よろしくお願いいたします。

○議長（千葉 隆君） ほかにございませんか。

○12 番（能登谷正人君） はい。

○議長（千葉 隆君） 能登谷さん。

○12 番（能登谷正人君） 人道的に言って避難民の受け入れは賛成なんですけれども、今一、度原点に返って、まだ国の方針もしっかりと決まっていない中で、そして牧野君もテレビ見ていた中で、私も見ていましたけれども、まだ国では入管なんかでも、まだしっかりと法整備されていない。これまずこれここからですね。国は。

ですから人道的に受け入れるというのは、これはなぜウクライナなのかなと。なぜ福島の災害の時に、あぁいう時になぜ八雲町で手を上げて受け入れしてくれなかったのかなという思いも含めて、もうちょっと国の動きを見て、それから準備はしておいて、それから手を上げたほうがいいんじゃないかという思いもしてます。

というのは、この 3 番目に載っている養護学校の件。この受け入れ態勢によって庁舎が新しく建て替えしなければならない。そのためには町民の皆さんの大切なお金を、町長が就任当時は新しい役場庁舎は絶対に建てたいという思いを聞きまして、そういう人も中にはいるんだよね。それが本

当だよなという思いもしていましたけれども、ここにきて、なぜ焦ってウクライナ難民を、受け入れるのはいいんです。反対しませんから。ただ、もうちょっと法整備なんかされてから手を上げたほうがいいんじゃないかというふうには思っています。理由は今、言われたとおり、そのたびにいろんな面で計画が頓挫したり、あるいは新しくお金がかかったりする、そういうような面もありますので、是非その辺も一つ考えてもらえれば、決して受け入れ態勢には反対するものではありませんので、その辺はどうなんでしょうか。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 能登谷議員ですね、私は東日本の時は町長でなかったということで、その辺の受入態勢というのは、ちょっとその辺に絡んでいませんでしたけれども、ただ今のウクライナ避難民については世界中が、やはり 500 万人の避難民が出てくるということで、各国、受入態勢を強化しているということでもあります。さらに確かに日本の法整備は進んでいませんけれども、テレビ報道等で見ると、整備するということ聞いています。

そしてさらに、これが決まってから動くのであれば、私は遅くなるだろうということと、我々北海道から無償でいただいた養護学校を有効に使えるし、さらに今、国立病院が使っていた宿舍等々も整備をすれば十分、こういう方の、避難民を受け入れることになる。そして先ほど言ったとおり、これと同時に日本語の学校の検討もしてまいりますので、こういうところがまた日本語の学校の生徒の寮に変換できるということも想定しながら進めています。今、能登谷議員から 3 番目に入りましたので、3 番目も説明させていただきますと、結局この避難民を受け入れるために養護学校を使うものですから、養護学校に教育委員会と資料館を整備するということで議員の皆さんに特別委員会を立ち上げていただいて、意見をいただきながら、おおむねいいだろうということで、このたび計画設計を発注するとなっていますので、今の避難民並びに日本語学校を進めるときには、この養護学校を使わないで役場庁舎を整備したいということも、また皆さんにお諮りしながら決めていきたいと考えています。

今ですね、新庁舎を、概算で養護学校を使った場合に 60 億程度ということと、これを使わないと 64 億程度ということですが、ただ、大きさ等々がまだはっきりしていませんので、逆にコンパクトになるのではないかと。ただ、この間の設計屋さんの話だと、かなり材料、いろんなものが高騰しているということで、その辺については、まだまだ建物の価格ははっきりしていません。

それと今一番下に行っている交付税充当後の実質負担額ということとありますと、養護学校を改修して使う場合には 25 億程度、さらに養護学校を使わないでコンパクトに作った場合には 27 億程度ということとありますので、やはりこれからのことを考えても一つにまとめて教育委員会。資料館はそこに付けたほうがいいのか、それとも徳川公園のそばがいいのか、さらには今の公民館のところに資料館、梅村庭園も残りますので、その辺も内部的に協議しながら計画設計を持っていきたいと思いますので、その辺についても議員の皆さんから意見をいただければと思います。

○議長（千葉 隆君） （１）（２）で進みましたけれども、（３）も関連性がありますので、養護学校の関係、とりわけ庁舎の問題もありますので、この件については、どういう形になるのかは、まだ結論が出ていませんので、もしもウクライナの関係が、支援するという事で受け入れるということになると、その辺も、改めて計画の変更なり見直しが行われるという前提でウクライナの支

援というものもあるということで説明がありましたので、その関係も含めて皆さんのほうから(3)も含めて意見を伺いたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○12 番(能登谷正人君) はい。

○議長(千葉 隆君) 能登谷さん。

○12 番(能登谷正人君) ですからね、私が言いたいのは、今まで議員の皆さんに行政側からいろんな庁舎の建替えの問題も、いろんなことで議論されて、そしてある程度、庁舎特別委員会を作ったり、いろんなことを今まで進めてきたことが、みんな白紙に戻す、いろんなものが全部白紙に戻すという、そういう猫の目行政、ころころ変わる行政というものは果たしていいのかどうか、前の町長さんが計画したことをやらないで、次に新しい町長さんがやるということでこれはいろんなことで考えられますけれども、同じ町長さんが1期目、2期目で3期目になると、ころころ変えていくという、こういう猫の目行政は私は避けるべきだと思うんですね。

その時代時代によって違ってくることもあり得るだろうけれども、やはり議会、でいろいろ議論されたことをモットーに町民の皆さんにも我々議員はある程度説明していくだろうし、やはりなかなか落ち着いた八雲町になっちゃう。ころころ変わるというのはいかがなものかなと思ったりしています。

先ほど皆さんも受け入れは賛成と。自分も受け入れは賛成で、人道的に当たり前のことですから。これはいいとして、やはりふるさと納税のこともおっしゃいましたが、それには限度があって、ある程度そういう国のある程度の応援、交付金がある程度決まってから遅くはないんじゃないのかなという感じはしますけれども、町長はそれでは遅いという考え方かもしれませんが、この一つ聞きたいのは、ころころ変わっていくというのは、いったいどうしてなんだろうという思い。これでしょうか。

○町長(岩村克詔君) 議長、町長。

○議長(千葉 隆君) 町長。

○町長(岩村克詔君) この役場庁舎についてはですね、ころころ変わっているわけではなくて、ころころ変わってるように見えるかもしれませんが、今回ウクライナの状況もあったということと、町民の中からも、やっぱり一括で建てたほうがいいという意見も多数ありましたし、さらに我々も今のウクライナを受け入れるときに養護学校を使ったほうがいいと。当初、この養護学校も道のほうから2億5千万程度ということでありましたけれども、今回、無償でということになりましたので、十分に活かすには、このウクライナ、このこともまさかウクライナにロシアが侵攻すると我々も全く予想だになかったし、500万人の避難民が出ているというのも事実ですので、なんとか八雲町として汗をかいていきたいということと、さらに役場庁舎も養護学校を使うときに養護学校は十何年経ってるということで、ひとつに建てたほうが、コンパクトに建てられるということも、このような考え方もあったということで、その中でまた議員の皆さんに意見を聞きながら進めていきたいということでもありますので、その辺はご理解をいただきたいと思います。

○12 番(能登谷正人君) はい。

○議長(千葉 隆君) 能登谷さん。

○12 番(能登谷正人君) 町長の考え方はわからないわけでもない。よくわかりますけれども、ウクライナから地球儀を回すと一番遠い国。日本も入ると思うんです。ですから、周辺のヨーロッパのあの辺には、ある程度の人材がいるだろうけれども、今は親せきに頼ったり知り合いを頼って北

海道には10名が来ているということですが、果たして本当に北海道に来るのか、心配もありますけれども、今から100名来るんだという考えで、3番目のほうまで持っていくということは、かなり冒険ではないかなと思っっているんですけれども、心配です。かなり冒険なことだと思っっていますけれども、どうでしょうか。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 確かに、このウクライナの避難民が八雲町に来るというのは、これは先ほど言ったとおりに来ないかもしれませんが、我々としたら八雲町として受け入れる体制を作ることによって制限するということがあります。ただ、今、確かに養護学校を使わないで実質負担金、今のところ実質負担金は2億程度多くなりますが、それは私は皆さんと議論を構えながら進めていく価値があるのではないかと。八雲町としてウクライナの避難民を受け入れるということを宣言することについては、私は大きな意義があるという思いがありますので、お金に換算できないものということで、ご理解をいただきたいと思っいます。

○議長（千葉 隆君） ほかに。

○9番（牧野 仁君） はい。

○議長（千葉 隆君） 牧野さん。

○9番（牧野 仁君） 今は能登谷さんのお話を聞いていても、私は現在、今、少子高齢化社会で、今、各事業所が人手不足で相当ここ4年5年の間、相当、事業所が疲弊している状態で、そういった観点から町長が言うとおりに、関口君もおっしゃったとおりに、それだけの人材も集めないと、なかなか八雲町の産業も支え切れてないんです。実質的に。

そういった観点から、将来性の投資としても凄くこれが大事なことになるので、是非、外国人労働者も安心して働ける環境整備は北海道も必要だと思うんです。皆さんもご存じのとおり、北海道は食料基地で、戦後、言われていましたけれども、私たちも林業もいろいろやっていますけれども、本当にひっ迫しているんです。この現状は町民の方はあまり知らないかもしれないけど、事業所各自に聞いたら、ほとんどの方がそれが一番悩みだと。それを何とかクリアするには、ハローワーク行っても募集しても、全道歩いても全然来ないという疲弊の声を聞いています。

そういった観点から生産性を上げるには、どうしても人手がいるので、やはり日本語学校は是非作ってほしいと、かねてから私思っっていますので、この機会に養護学校を有効活用して是非投資していただいて、これから八雲の産業を支えるうえでも、八雲町の町の発展を見込んで皆さんの賛同を得たいと思っいます。以上です。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） ありがとうございます。

これ本当にウクライナの人を受け入れるということを準備しながら、この日本語学校は2、3年かかりますので、これは結構、ウクライナの難民を受け入れるより、日本語の学校をですね、許可もらうほうが結構難しいと聞いていますので、私もこのいろんな事業所、先般も土木また整備いろんな団体からも、日本語を勉強する場所や外国人の働く人の体制というのは不可欠だという話も聞いています。その辺も含めてこの養護学校を活用できればなと思っっていますので、今牧野委員ですね、大変良い話だと思っっています。ありがとうございます。

○12 番（能登谷正人君） はい。

○議長（千葉 隆君） 能登谷さん。

○12 番（能登谷正人君） 議員間同士の。

○議長（千葉 隆君） それは終わってから。

○12 番（能登谷正人君） 今、大事なこと。

あの、牧野議員にお尋ねしますけれども、人手が足りないってよく聞きます。直接、牧野君からも聞いていますけれども、要するに採用する条件が悪いんじゃないんですか。あんたたちの。採用する条件。日本人なんて時給なんかでも高くするとどんどんきますよ。首かしげないで、議員間同士の討論ですから。別になんかあったら言ってください。遠慮しないで。

時給でも、それから生活の対応でも、どんどん改善して北海道でトップクラスの報酬を払ったら絶対に来ますよ。要は企業の努力が足りないんじゃないですか。それだけ働いた分、これだけ出せますよって、そういう意気込みというのかな。来ない理由は、やはりある人が言っていましたけれども、隣の森町が、人がどんどん採用するけれども、それが八雲町になぜ来ないか調べたら、森町が時給が高かったと。あるいは月給が5千円、7千円高かった。

○4 番（大久保建一君） 議長、直接これに関係ないんじゃないですか。

○12 番（能登谷正人君） 議員間同士。ですから企業の努力も必要ではないかと思うんです。人手が足りないって言うのではなくて、そういうことも考えてみたらどうでしょうか。

○議長（千葉 隆君） 日本語学校については、直接、関連性はあるにしても、具体的にどういう構想で日本語学校の誘致が進んでいるのかということが、まだ町のほうから具体的に来ていませんで、その段階で日本語学校の誘致に関係についてはお話する機会を設けたいと思います。また、人材不足についてはそれぞれの企業努力もありますし、構造的な労働力の不足も日本全国状況もありますので、そういった視点で今は議案がウクライナ避難民の人道支援ということですので、とりあえず人道支援につきましては、大方の皆さんの考え方としては人道支援に否定するものではないということで、全体的にウクライナの人道支援を行うということについては、よろしいでしょうか。

（「異議なし」という声あり）

○議長（千葉 隆君） では、次に実際に町長のほうからも手を上げるけれども、その前提としては、やっぱり100人規模や、どれくらい受け入れるかということを発表していかないと、1人しか受け入れられないものを大々的に受入の表明をすることはできないので、とりあえず規模を発表する時点で、100人規模ということで町長のほうから表明がありましたので、その関係も皆さんご指摘のとおり、1人来るものか80人なのかということもあります。

そして能登谷議員さんが言いましたように、整備の部分もこの受け入れる避難に来る方々の規模によって、養護学校を使わなければならないものなのか、あるいは本当に小さなスパンでの関係で済むのか、状況がありますので、具体的に動き出した時点で、また皆さんと協議するということでしょうか。この時点で施設を全部こうやるだとか、こうするだとかということにもならないけれども、まずは100名規模を募集して、実態の動向が出た場合にはまた、ここから整備させていただくとか、予測、今後の募集の予測では、やっぱり養護学校も使うとか。その間にどちらにしても日本語学校の話も、状況で町長のほうからも報告があつて、どういうふうなかたちになるのか、それから設置がどういう企業になるのか、民営なのか町営なのかも含めて出てくると思います

ので、そういうスキームというか、かたちで進めていくということでは、どうでしょうかね。みなさん。

○11 番（斎藤 實君） いいんじゃない。

○議長（千葉 隆君） 町のほうも、それでなにか問題というか課題はありますか。当面こういうふうには、ここだけはこうしてもらわないと困るとか。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） ある程度は理解をいただいたということで、大変理解いただいたことに対してお礼を申し上げたいと思います。

ただ、一点だけ、今、役場庁舎の計画設計の発注をこれから考えていましたので、それをですね、今皆さんの話を聞くと、日本語学校や養護学校の利用を6、7月くらいには、多分ある程度の方向性が出るということで、発注もまだすぐに発注しないで、ちょっと延ばそうかなと考えていますけれども、その辺はご理解いただけるのでしょうか。

○議長（千葉 隆君） 今、町長のほうからご説明がありましたけれども、それについては若干伸びて、いろいろな課題もありますので、その都度、早急に全協を開くなり所管の委員会を開催しながら議員皆様のご意見を聞くということでよろしいでしょうか。

（「はい」という声あり）

○議長（千葉 隆君） それでは、ウクライナの避難民受け入れについては、議会も全面的に人道支援に賛成ということで総括したいと思いますが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」という声あり）

○議長（千葉 隆君） ということで、よろしく願いいたします。

○町長（岩村克詔君） ありがとうございます。

◎ その他

○議長（千葉 隆君） 4のその他につきまして、議運のほうから、先だって議会運営委員会が先週の金曜日に開催されまして、議会報告会と意見交換会の開催についてが決まっておりますので、皆さんの意見を伺うべく、議運の委員長さんのほうからご説明をお願いいたします。

○8 番（三澤公雄君） コロナが続いている状況ではございますけれども、3年ぶりに議会報告会の必要性が高まってきていますので、なんとかコロナの環境の中でも開ける工夫をということで議運の中で話し合いまして、原案をまとめてみました。これから事務局に発表してもらいますけれども、あくまでもこれは原案ということで細部の運営とかは、このあといろいろ話し合っていこうと思います。局長お願いします。

○議長（千葉 隆君） 局長。

○議会事務局長（三澤 聡君） それでは資料のほうをご覧くださいと思います。4月14日に開催しました議会運営委員会で、議会報告会、意見交換会の開催について協議しましたので、その結果についてご報告し、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

これまでの議会報告会の開催状況としては、令和2年8月27日に予定しておりましたが、コロナの感染状況から中止としており、その後はコロナの感染状況から開催することができない状況でございました。八雲町内もコロナの感染状況は皆さんご存じのとおり、一週間ごとの累計数は、現在

は増加傾向にあります。これから大型連休を迎えまして今後の感染拡大が懸念されるところでございますけれども、まず今、委員長が申し上げたとおり、開催に向けて準備を進めることとしましたので、よろしくお願いいたします。

それでは資料のほうをご覧いただきたいと思います。開催日は7月20日水曜日を予定しております。会場については昼の部として、はびあ八雲で午後1時30分から、夜の部としては、午後6時からくまいし館と落部支所の2か所で同時開催する予定です。

次に、会場ごとの割り振りですけれども、はびあ八雲については議員全員の出席で行うということであります。くまいし館については赤井文教厚生常任委員長を代表に、記載の委員の皆さんを割り振りさせていただいております。落部支所については、安藤総務経済常任委員長を代表に、記載の議員の皆さんを割り振りさせていただいております。この中で当日の司会や記録・報告の担当を決めていただくことになりますが、これについては後日決めていきたいと思います。

三つ目の開催についてですけれども、7月20日に開催するというところでございますが、コロナの状況によってはどうするかという判断は出てくるだろうと思っています。

また、開催に必要な対応としては4点あげております。一点目は感染拡大防止対策で、会場での消毒液の設置、会場内の換気、マイクの不使用、それから間隔の確保、人数制限の措置が必要と考えております。二点目は、参加者への周知としまして、当日の健康状態の確認、いわゆる検温の実施とマスク着用の呼びかけを事前に周知する必要があるということであります。三点目は、参加者の受付で、万が一の参加者の追跡連絡のために、指名・住所・連絡先の記入をお願いする旨を、これも事前に周知する必要があると考えております。四点目は、開催時間の短縮を図るために報告内容の絞り込みが必要であるという考えか、ら開催時間を全体で1時間30分程度を設定して、報告内容については五番目のとおり、二点に絞っております。

以上、開催にあたっての必要な対応としてございます。

4番目は、テーマについてですけれども、テーマはこれまでと同様に、皆さんの声を聞かせてくださいということとしております。

5番目の内容についてですが、当日は意見交換と、議会からの報告というふうに分けての考えですけれども、意見交換については全会場共通で地域公共交通網形成事業について意見交換をしたいというふうに考えてございます。議会からの報告は八雲地域については、サーモン養殖事業についてと、八雲総合病院の経営についての二点について報告したいというふうに考えております。熊石地域については、サーモン養殖事業についてと、熊石国保病院立替についての二点について報告するという考えでございます。

6番目の開催の周知についてですが、これまでと同様に町内会長さん、そして各種団体ということで、いくつかの団体に開催案内を送付することとしたいというふうに思っております。また、議会だより5月号と、町のホームページで開催日時を掲載したいと。それから道新さんにも開催の掲載依頼をしたいと考えてございます。そのほかに、町広報7月号、議会だより臨時号ということで1枚ものの紙でと考えております。また熊石地域については、防災行政無線がありますので、これを活用したいというふうに思っております。

7番目の準備の役割分担ですけれども、開催周知のためのポスター作製と当日配布する資料の作成の作業が出てきますが、これらを記載の議員の方々にお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

今後は、当日に向けての準備として、意見交換及び議会報告で説明する内容の再確認、それから当日の報告会の進め方の打ち合わせなどあるかと思いますので、また皆さんにお集まりいただいて協議していただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

以上で説明を終わりますけれども、協議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（千葉 隆君） それでは今、局長のほうから議会報告会についてのご説明がありましたけれども、皆さんのほうから日程等を含めて、なにかご意見や考え方がありましたら受けていきたいと思いますが、なければこの日程で進めることでよろしくお願いいたします。

ほかに全協、せっかく開催しておりますので、何かこの際にありましたら伺っていききたいと思いますが、よろしいですか。

○8番（三澤公雄君） たとえば庁舎のことで、小チーム作った話なんかは今したほうが。

○議長（千葉 隆君） したほうがいい。

○8番（三澤公雄君） ちょっと議論が出たので。

○議長（千葉 隆君） 議会運営委員会委員長。

○議会運営委員会委員長（三澤公雄君） 先ほどの庁舎の建て方が、町側の提案内容が変わっているということに対して能登谷議員も強く危惧されたんですけれども、これまで特別委員会で対応していましたけれども、それが一度、中間報告まとめて終わっていましたけれども、これから令和4年度、あぁいうふうには極端に変わる提案がこんなに早く出ると思っていましたけれども、内部を徐々に詰めていくうえで議会としてどう対応していくかを議運で話し合いまして、全員が一度に集まって、あぁいう特別委員会みたいなのをやるとなかなかスピードアップも図れないということで、議会の中で小委員会を作って、その委員会の中に、ある程度権限を附託しまして、町側と原案づくりの段階でも、全体で話し合うことと、裁量権をもって会議を進めるという、スピードアップを図ることが大事で、そういったかたちで整理しようということで、4名の委員を決めて進めようということを議運で原案づくりしております。是非そのことも。

議運の正副で、私と副委員長の大久保委員、そして若い力をということで関口委員と倉地委員の4名で小委員会を作りまして、町側のそういった基本計画づくりの会議の進め方の中に入っていくということで今、進めております。是非その中でこういったガラッと変わった提案なんかも皆さんと話し合う、意見集約の場を作って、そして小委員会が町側に持っていくというかたちで進めたいと思いますので、先ほどの議論ちょっと加熱した部分もありましたけれども、是非、そういう場を設けますので、積極的にそのときに皆さん発言して、良い庁舎づくりということで進めていきたいと思います。

（何か言う声あり）

○8番（三澤公雄君） もう一つ。この小委員会は、一方でもう一つの性格も持ちました。いわゆる新庁舎になったときに、いわゆるペーパーレスだとか今のICT技術にあうDXというんですか。そういった進め方に我々議会も進んでいこうということで、その議論も同じ4名の委員に率先して原案づくりや進め方について、先ず勉強して議論してもらおうという形で、チームを作りましたので、そのこともご了承いただきたいと思います。

○議長（千葉 隆君） 公開してもらったら困るんですけれども、今、提案が町からあったのは教育委員会と本庁舎を一つにしたいという意向でもって教育委員会を今、活用するという話ですから。今までの話は養護学校を教育委員会に活用して、やるという話ですから。それが今現段階で今、正

式に考え方を示されたということなので、ある程度に詰めた段階については、全協で対応して、その方向性が定まった段階で町内というか原課のほうでもいろいろ協議してくることが細かい部分であると思うので、その部分の対応を今、選抜されたチームで対応するという事で、大きな課題についてはあくまでも従来どおりの対応ということをお願いしたいと思いますが。ということで。

あと、この件、ほかになにかありましたら受けていきたいと思いますが、よろしいですか。

(「はい」という声あり)

○議長（千葉 隆君） それではこれで本日の全協を終わります。ご苦労様でした。

〔閉会 午前１０時５３分〕